

(11)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

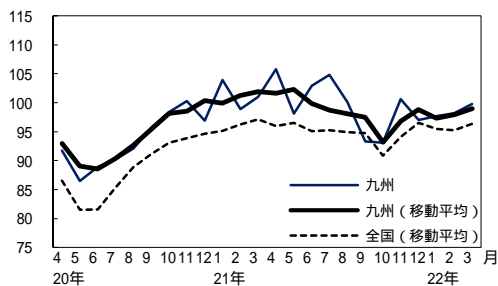
	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、汎用・生産用・業務用機械は半導体製造装置等が増加したこと、輸送機械は普通乗用車等が増加したこと等により、前期比1.8%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		10 - 12月期	1 - 3月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	13.6	10.8	4.0	5.9	1.2	5.3
輸送機械	13.5	13.8	11.2	15.4	7.9	14.9
食料品	12.2	0.7	1.6	1.2	0.6	0.1
汎用・生産用・業務用機械	12.2	14.5	13.3	10.1	7.6	18.4
化学・石油石炭製品	10.0	2.1	10.5	10.0	3.8	6.2
鉱工業	100.0	2.5	1.8	0.7	0.5	1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2015年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1 - 3月期は前期比1.2%減となった。月別にみると、1月は前月比1.1%減、2月は同1.6%減、3月は同1.7%増となった。

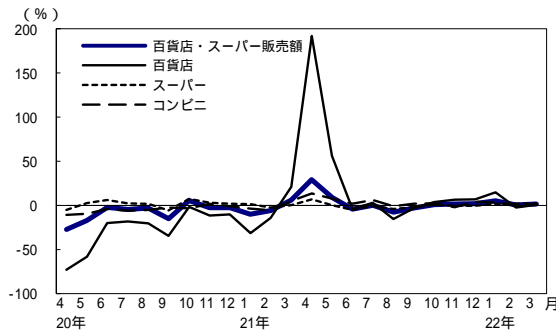
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比2.5%増となった。月別にみると、1月は前年同月比5.4%増、2月は同0.6%増、3月は同1.5%増となった。

百貨店は、1 - 3月期は前年同期比4.1%増となった。

スーパーは、1 - 3月期は同2.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.2	1.1	1.6	1.7
百貨店・スーパー(*2)	2.5	5.4	0.6	1.5
百貨店(*3)	4.1	14.9	2.5	0.6
スーパー(*3)	2.1	1.8	2.2	2.4
コンビニ(*3)	1.7	3.5	0.0	1.5
乗用車(*4)	18.3	17.9	21.4	16.3
(季節調整値)(*4)	3.9	2.4	8.0	10.3

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

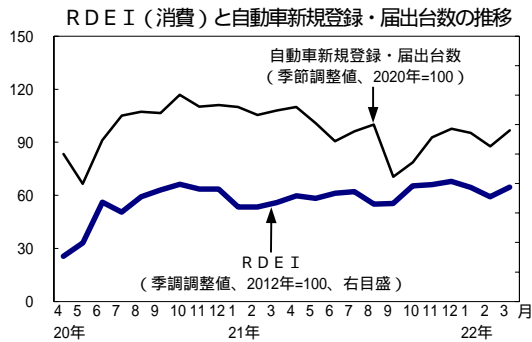
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

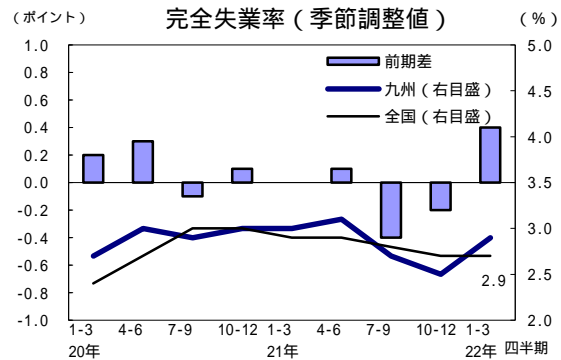
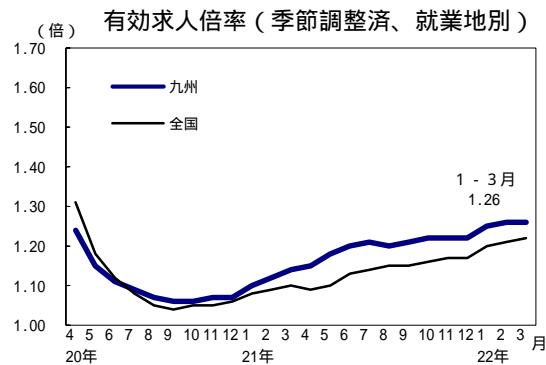
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことによるまん延防止等重点措置の解除が大きく影響し、人の動きが良くなったことで、客と売上が増加している(商店街)。
			・納期が長期化しており、客に納車を待ってもらっている状態である(乗用車販売店)。
企業 動向 関連			・海外からの原料入荷遅延と、船舶費用の高騰が続いている。原価の上昇を販売価格へ転嫁しているため受注量が減少気味である(輸送業)。
			・製品の部品不足は深刻で、納期が間に合わない状態である。また、当社以外のメーカーも案件自体の納期延期により、受注残は増加傾向にあり、売上が立たない状況である(金属製品製造業)。
雇用 関連			・車載関連を含む半導体設備や検査の引き合いがあり、設備や人的リソース等の条件が合えば引き合いは増えていく状況である(電気機械器具製造業)。
		・求人数は高水準で推移しているが、求職者にその実感はない状態である(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント		・コロナ禍で採用抑制が続いていたが、当市でも求人数が増えている。学生の採用活動の早期化もあるが、現時点の大学4年生の内定状況も良い(民間職業紹介機関)。 ：今まで旅行等の行動を抑制していたため、外出も増え始め、衣服の購入も増加し始めている(衣料品専門店)。 ×：建物の新築や改修は、材料や製品単価が3~4割上昇しており、製品の入手困難等が続いている。ただし、業務の対価は上昇していない(設計事務所)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・更なる物価上昇により、家計支出は抑えようとする動きが出てくる。一方で、新型コロナウイルス新規感染者数は高止まりしているが、まん延防止等重点措置等は適用されていないため、ゴールデンウィークを迎え人流が多く動くことを加味すると、前年以上の景気は見込める(スーパー)。
			・4月からの値上げによる買い控えの影響は少ないが、品薄や品切れが続いており、成約に結び付けることができない。以前からの半導体不足による影響に加えて、上海のロックダウンやウクライナ情勢等による影響であり、悪い材料が重なっている(家電量販店)。
	企業 動向 関連		・半導体不足の影響で、情報通信機器のリードタイムが長くなっているものの、受注自体は変化がないと予想している(通信業)。
			・依然として新型コロナウイルスの感染力は落ちていないが、新型コロナウイルスとうまく共存していく雰囲気になっている。特に影響が大きかった外食が、すぐには完全な状態に戻らないにせよ、今後徐々に戻っていくと考えている。量販店や外食部門では5月に期待ができる。また、梅雨明けの7月はアウトドアの需要も含め大いに期待している(農林水産業)。
	雇用 関連		・求人数は増加しているが、状況に応じてリモートワークができる求人数が少ないため、求職者の流動性が生まれず、職場環境により固定化されている。職場環境を変えることに大きく踏み込まない限り、現環境下で回復することは難しい(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント		：原料不足に加え、原料や資材の価格が高騰し、今後の収益に影響が出ると予想される(食料品製造業)。 ×：新型コロナウイルス新規感染者数について、大都市では減少しているようだが、当県では増加が止まらず過去最高の新規感染者数になっている。そのため、人の動きがなく希望がみえない状況である(高級レストラン)。	

(D I) 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)

